

## 竹内さんのウクライナ便り

先号で書きました前首相ティモシェンコ氏の裁判の結果、彼女が禁錮7年の実刑判決を受け、さらに他の横領容疑でも捜査が行われており、欧米で批判されていることは日本でも報道された通りです。この件が原因で、EUとウクライナの間で締結されようとしている連合協定の文面にも、将来のウクライナのEUへの加盟に関する言及を含まないという可能性が出てきた由。一方、11月に入りロシアからウクライナの輸入するガスの価格について、ウ・露間の交渉が行われ、一部メディアでは大幅な値下げ（今年第3四半期で千立米あたり354ドルのところ、同230ドルに？）で合意が成立したと書かれていますが、ウクライナ政府は未だ正式のコメントを控えています。この値下げにより、ウクライナの国営ガス会社ナフトガス社の赤字が削減され、それに伴って、現在停止されているIMFの対ウクライナ融資が再開される可能性も指摘されていますが、引き換えにウクライナは、ナフトガス社の民営化に際し、ロシア企業に特惠条件を与えるのではとの推測もあります。

チェルノブイリ被災者の社会保障削減については、その後も激しい抗議行動が続き、政府は法改正を見合わせていますが、ウクライナ東部のドネツクでは11月15日、事故処理作業員らが、法に定められた金額での年金支払いとアザロフ首相との面談を要求、年金基金州支部前で無期限ハンガーストライキに入り、23日現在41名がハンストを続行中。他州の事故処理作業員もハンストに加わっています。

ドネツク市議会は、彼らに対するテロ行為の危険性があるとして、この抗議行動を禁止する訴訟を起こしましたが、事故処理作業員たちは、テント村が撤去される場合にはいかなる手段も辞さないとしており、集団焼身自殺の可能性にまで言及。その後ドネツク市長は強制撤去は行わないと発言したそうです。法律では、各カテゴリーのチェルノブイリ被災者の老齢年金額につき、一定の補填を行うことが定められているのですが、国は予算不足を理由にその支払いを行っていないケースが多く、最近でもキエフ市内の被災者が、法に基づく支払いを求めて年金基金事務所で交渉中に心筋梗塞を起こし、亡くなったという話を聞きました。

ところで、私事ですが最近結婚いたしました。妻はウクライナ人で会社の秘書をしており、彼女が仕

事から帰ってくると一緒に食材の買い出しをし、夕食を一緒に作って、食べながらTV番組や映画を観たりする



〈竹内さんとオーリャさん

(2011.10/08 原さん撮影)〉

のですが、週一度の番組で、二家族（夫婦と子どもの核家族がほとんど）の妻たちが一週間だけ入れ替わって過ごすというものがありました。事前に行き先の家庭については何も知らされないという条件があり、相手側の家に着いてから、妻の残した指示書（家族の構成・家計、どの時間帯をどう過ごすかなど）を見て、何日かはその代わりを務め、その後は自分流に新しいルールを導入することも可、という筋書です。それぞれの家庭の夫は、未知の女性（とTVクルー）を自宅に受け入れるにあたって、当然最善を尽くしていると思われ、画面に見られる生活の様子が実際の日常とすべて同じかどうかは割り引いて考えるべきでしょう。しかし、毎回いろいろな事情の家庭が登場し、車椅子の障害者の夫、イタリア人の夫、ダウン症の子ども、薬物依存症を乗り越えた夫妻などの暮らしが描かれ、二家族の住む場所が遠く離れた地方だったり（ウクライナ東部のハリキウと西部のリヴィウなど）、都会に住む家族と辺鄙な農村の家族だったりして、生活様式と文化の相違を乗り越える女性らの努力が、時に真剣に、時にユーモラスに描かれています。視聴者に対してけっこう啓蒙的な効果もあるのではないかと思います……といえば大袈裟かもしれませんが、入れ替わるのなぜ妻であって夫でないのかについては、フェミニズムの見地から批判もあるはずですが、けっこう人気番組なのか、それなりに長く続いています。

まあ、日本でこういう番組を作るのは、難しいでしょうね。ウクライナだと、初めての客を自宅に招く時、まずアパートや家の部屋すべてを案内することもよくあり（もちろん、事前に入念な掃除が行われていると思われ、もともと「家」の開かれ方が違うような気がします。ウクライナでも独りが好き、あるいはよその人をうちに入れたくないという性格の人はいるわけで、安易な一般化は避けなければなりません。 (11月24日)